

みんなの思い出が 詰まった建物だから

株式会社サラベル鹿野



佐々木千代子 さん
Chiyoko Sasaki

田中 文子 さん
Fumiko Tanaka



木造が懐かしい「しかの心」



今年7月27日にホールで催された「世界の運フォーラム」

相談がきっかけ

今年6月、鹿野城跡公園のすぐそばに、「サラベル鹿野」が運営する「しかの心」がオープンしました。どちらもなんだか不思議な名前ですが、何だと思いませんか？サラベル鹿野の代表取締役である佐々木千代子さんと田中文字子さんに伺いました。

鹿野町では、城下町の風情ある景観を活かして、「いんしゅう鹿野まちづくり協議会」（平成15年からNPO法人）を中心に、さまざま

ちづくりの活動が行われています。佐々木さんと田中さんもこの協議会のメンバーです。

あるとき、古い工場が建っている鹿野城跡公園の近くの土地を売りたいという相談が、協議会にありました。

「土地と工場の所有者が亡くなり、引き継いだ奥さんが処分しようとしていたんです。よその会社を買って、景観に合わないものを建てられても困る、ということ、地域で土地を買う方法を考えました」と佐々木さんは振り返ります。

株式会社を設立

調べてみると、NPO法人では銀行の融資が受けにくいとのこと。佐々木さんと田中さんをはじめとする7人の発起人が出資を募り、株式会社を設立することになりました。佐々木さんは続けました。7人の中で代表者を決めることになったら、ほかの人はそれぞれ都合があつて辞退されて、残ったのが私だったんです。でも、一人では不安だから、『夢こみち』で活躍されている田中さんに手伝ってもらおうこ

とにしました」。

設立する会社の名前は、鹿野方言を集めた冊子を見ながら考えました。

「『さらべる』という言葉を見たときに、みんなが『これだ』って思ったんです。『さらべる、集める』という意味なんです。少ない人やお金でやっていく会社にぴったりです（笑）。カタカナにすると『フランス語みたい』と言われますね」と佐々木さんは笑います。

古い工場を活用

二人とも土地の取得のこと

佐治天文台長

こうさいひろき
香西洋樹の「暗い夜空が教えるもの」

Vol.23 夜空は暗いもの ひかりがい
公害と光害

本来の夜は当然暗いものでした。明るくなってきたのは、人工的に明るい夜が作り出されているからです。夜景を演出するライトアップも、ビルの屋上のネオンサインも、それぞれ夜空を明るくするのに一役かっているのです。

1980年代の末のことです。光害に関する裁判が結審しました。あるホテルで、向かいにあるパチンコ屋の屋外照明が明るすぎて宿泊客から多くの苦情が寄せられ、ホテルの経営が困難になったという訴訟で、判決は「パチンコ屋に賠償を課す」というものでした。反論として、「光は人を殺さない」という声もありました。しかし、明るすぎる照明がホテルの宿泊客の安眠を妨げたというのが判決理由でした。

この人権裁判の判決を契機に、環境庁は公害の中に光害を加えることにして、現在は適正な照明方法を広くPRしているのです。そして、国際的な環境の指針を示す京都議定書にも関与しています。

アメリカのアリゾナ州へ行った時、街全体がオレンジ色の照明でした。近くの国立天文台の観測の非効率化による税金の無駄遣いを抑えようという照明への配慮なのです。



眺めの良いカフェは、観光客や地域のみなさんの憩いの場

だけ考えていて、建物にはあまり思い入れがなかったようですが、調べてみると非常に数奇な運命をたどった建物だったのです。

佐々木さんによれば「昭和8年に蚕の稚産飼育所として建てられ、その後は公会堂、中学校の教室、そして最後は肌着の縫製工場でした。私たちが購入したと分かる、いろいろな人がそれぞれの時代の思い出を話しにきて

くれたんです」ということで、建物の現状は活かし、厨房やトイレ、電気関係だけは現代的にして、あとはそのままの外観にしたとのこと。

コーヒーとギャラリー

建物の名前は「しかの心」と命名。「60代くらいの方は、すぐ前にお堀の『心字池』と呼んでいます。上から見たらお堀の配置が『心』という字になっているんですよ」と田中さん。「心」だけではなんのこっちゃということと、佐々木さんは付け加えます。

内部空間は、お城の近くでくつろげる「カフェ」と、大空間を活かして作品展示や講演会、パーティーができる「ギャラリー」として使うことにしました。

「鹿野で輸入したコーヒー豆を焙煎している人に豆を分けてもらい、毎日布勢の清水（市報9月号「元気で」参照）で汲む水でいれています。地産地消ですよ」と田中さんがコーヒーのおいしさの秘けつを教えてくださいました。

田中さんは「株式会社の設立のときに、地域の方がたくさん株を買ってくださったことにびっくりしました。いろんな人が鹿野を元気にしていきたいと思っています。その声を活かしていきたいです。コンサートや演劇などで、文化を発信したいですね」。佐々木さんは「ここで、若い人に雑貨やおみやげなどを売ってもらったりして、少しでも経済的な地盤になるようにしたいんです」と意気込みを語ります。

若い人が再び集う鹿野。「しかの心」を中心に、新たな活気が生まれる予感がします。



「フルカットオフタイプの道路灯」
漏れ光がないので必要な所だけ照らします。
まぶしさの軽減、電気代の節約にもなります。